

平成 29 年度主要課題 外部評価結果

1 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

[総合評価]

- ・ PM2.5 汚染は近年特に注目を集めており、神奈川県内においても環境基準達成率が低い年度があるなど、重要課題の1つである。
- ・ 本研究課題は、PM2.5 の汚染実態の把握と発生源地域の推定を目的としたもので、時宜を得た、また行政上の重要性の高いテーマといえる。
- ・ H28 年度は 3 年計画の中間年として、年次計画に沿って概ね適切に遂行されていると評価できる。
- ・ 国環研、地環研等の共同研究においても、主導的な役割を担っており、当センターのポテンシャルの高さが示されていると評価できる。
- ・ H29 年度のとりまとめに向けては、データ解析、モデル計算とも既に手法としてはほぼ確立できていることから、これらの成果を今後行政に活かすための課題を明確にすることが重要といえる。

- ・ 研究は高いレベルで進んでいると評価できる。
 複数の機関との共同研究になっていることは、広範囲を対象とするため必然的と考えるが、そのために自由にならない部分や、中身が不透明になるなどの欠点も生じうるので、連携を密にして共同研究の実をあげていただきたい
- ・ 県内のサンプルについての CMB 法による結果と、広域シミュレーション結果との整合性についても検討していただきたい。

- ・ 本研究課題は、神奈川県における微小粒子状物質の把握と発生源推定という県民の健康等に寄与する研究といえる。世界的にも発生機構等が未だ検討中の問題で有り、新規性も高いといえる。昨年から、さらに進展が見られている。具体的なモデルによるシミュレーションについても、国立環境研究所他、他研究機関との共同検討も進めており、その信頼性も高められていると考えられる。また課題についても、細かく検討が進められている。平成 28 年度の学会等発表も複数回実施され、成果公表も進んでいると評価される。全体を通して、高いレベルでの研究が適切なスケジュールで実施されている。
- ・ PM2.5 は社会的な関心も高く、再現性の高いシミュレーションモデルは、発生源対策や注意報発令の参照情報ともなるため、神奈川県において行政ニーズの高い研究と考えられ、社会的な貢献も大きい。
- ・ 研究成果を着実に積み上げており、学会発表を積極的に行っている点、共同研究により他の研究機関との連携が進んでいる点も高く評価できる。
- ・ 一方で、シミュレーションモデルの研究は長年にわたって実施されているテーマであり、明確な到達目標の設定が必要である。
- ・ 本研究の成果が、我が国の PM2.5 とオキシダント対策へ貢献することを期待する。また、神奈川県内の大気汚染予報にも活用されるようになると良いのではないかと。

[数値的評価]

評価内容	評価項目	評点				
		5	4	3	2	1
課題設定の妥当性	背景と必要性	3人	1人			
	優先性	4人				
計画の立案と実施方法	研究内容	1人	3人			
	計画の妥当性	2人	2人			
研究の進捗状況	進捗状況	2人	2人			
成果の展開と普及	目標の達成度	3人	1人			
	具体的な成果	3人	1人			
	成果の発展性	2人	2人			

5 点満点 (標準 3 点) の評点で 5 ~ 1 点の絶対評価